

米沢の医療と教育

帰ってきた医師

志を語る

今年、ふるさと・米沢に4人の
医師が帰ってきました。

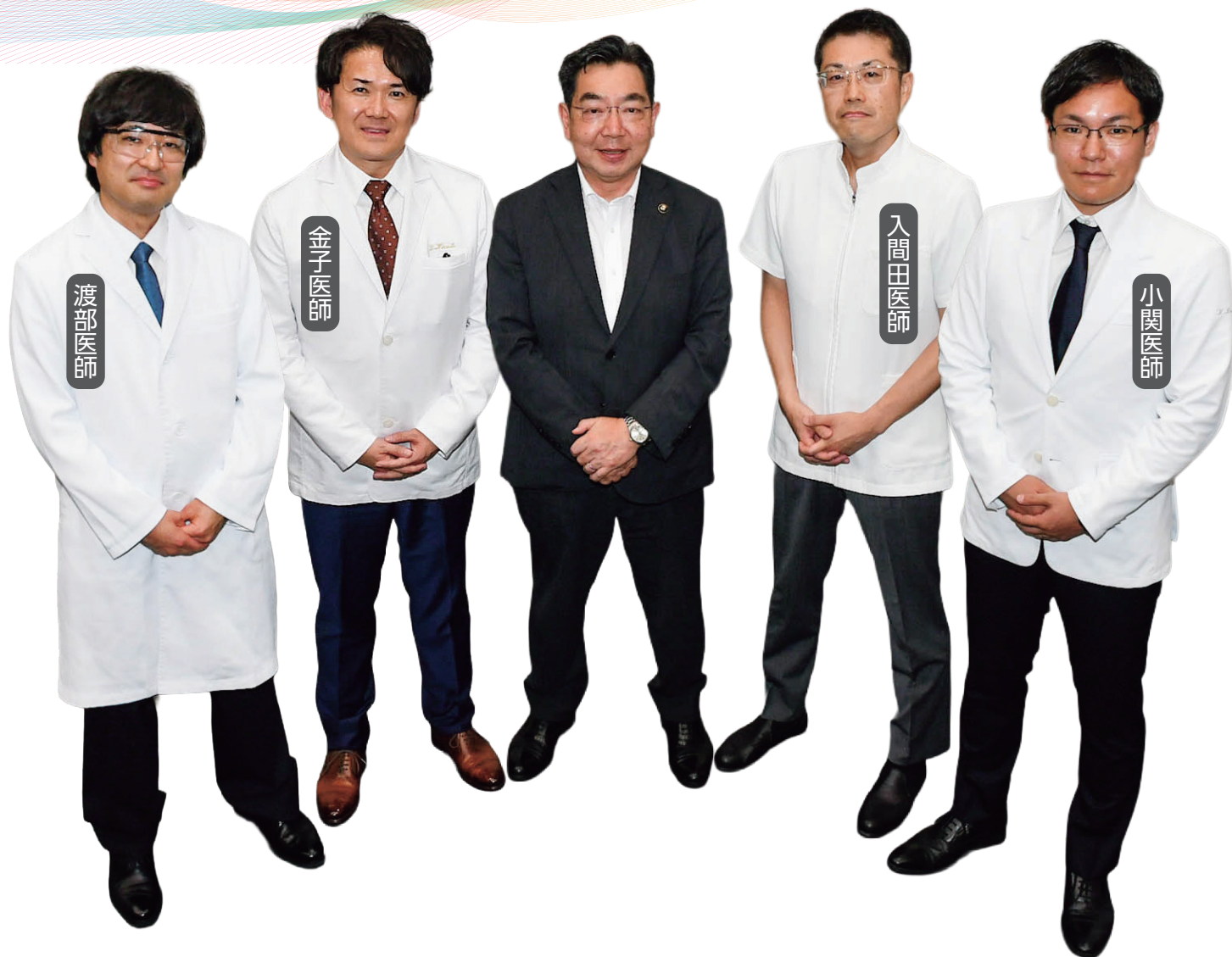
働き盛り。大学病院や首都圏の
大病院で、最先端医療の第一線で
活躍。その経験を踏まえ、開業医
として地域の再生に挑みます。

医療は暮らしの土台、好循環の
米沢の要^{かなめ}です。

医師不足の解消に取り組んでき
た近藤市長と4人の医師が、米沢
再生について熱く語りました。

■問合せ／健康課健康企画担当 ☎24-8181

政策企画課企画調整担当 ☎22-5111



「やりがい」求め故郷へ

近藤市長 皆さん米沢出身で、東京や山形で病院勤務されている働き盛りです。この時期、米沢に帰り病院を開設・継承を決めた理由を教えてください。

金子医師 山大医学部に入り、眼科に入局後、2年間のアメリカ留学を経

て、大半を大学病院で過ごしてきました。准教授として充実した日々でしたが、一方で管理職になり「自分のやりたいこと」から離れてしまう「もどかしさ」を感じていました。一人の医者として実力を出せるのは開業医だと思い、ご縁のあったよねざわ眼科を今年1月に継承しました。

渡部医師 岩手医大を出た後、日本大学医学部の系列病院で眼科医として勤務していました。40歳を過ぎて、逆に米沢への思いが強くなってきました。祖父から米沢には眼科が少なく、患者さんも困っているという話を聞きました。思い切って決断、3月に成島町で開業しました。

入間田医師 慈恵医大を卒業した後は、小児科医として東京都立大塚病院で20年勤務しました。アレルギーなど慢性疾患を持つ子どもたちに長く伴走していきたいと思っていたため、元々は東京を離れることには消極的でした。ところが、70代後半になる小児科医の父が体調を崩しまして。退院後も本調子でないのに、引退しないんです。なぜそこまでやるのか。その世界に飛び込み、

想いを継いでいきたいという気持ちになりました。そして、地元の米沢で患者さん本位の開業医になりたいと思い決断しました。

小児科の場合、ワクチンや健康診断も含めて予防が大事です。感染

症への対応にも力を入れていきたい。アレルギーの専門医でもあるので、しっかり診ていきたいと思います。

小関医師 母方の祖父と両親も医師で、私も医師の道を歩むことになりました。群馬大学医学部卒業後、東京大学の医局に入局し、三井記念病院で循環器内科医として研鑽を積み、東京大学大学院で学び、海外留学も経験しました。専門性をさらに深める道もありましたが、米沢に戻り、慢性疾患を中心に、患者さんの人生に寄り添う地域医療を担いたいと考えました。

近藤市長 米沢市は医師不足に対応するため、診療所の開設・継承の補助金制度を導入しました。どのように活用されましたか。

渡部医師 医療機器は高額なので、米沢市の補助金は開業にとって大きな力になりました。私は白内障の手術ができる機械の購入資金に充てました。眼科は、市長の判断で対象にしたと聞いています。開業医の場合、最初の半年間は資金繰りに厳しい。その意味でも、大変助かりましたし、開業の後押しとなりました。

入間田医師 紙カルテを電子カルテに変えるシステム改修費に充てる予定です。また、祖父の代に開業して50年近くなるので、院の改修費に活用できればと考えてます。ありがたい制度で、感謝しています。

医学部合格者が激減 広がる地域間の教育格差

近藤市長 4先生とも米沢興譲館高校のご出身です。今春の興譲館高校の医学部合格者数は現役1人となっています。東北大学合格者数は0人となりました。山形市など村山地方と格差が広がっています。医師確保の観点から、どうでしょうか？

金子医師 驚いています。私が高校を卒業したのは30年前ですが、同級生で医学部は少なくとも8人はいたと

思います。東北大学は20人ぐらいいたんじゃないか。様変わりですね。東北大学0人というのはショックです。あえて言えば、興譲館の場所の問題もあると思います。用地確保などの課題はありますが、校舎の移転は必須だと思います。

小学校の教育水準も大切ですよ。山大医学部も関東勢が増えているんですが、教育の「底上げ」に成功している。山形県の小学校、中学校の教育の引き上げも大切ですね。**近藤市長** おっしゃるとおりです。医学部4人を現役合格させている東桜学園高校を見ても中高一貫教育校が成功しています。米沢市は、県立の中高一貫教育校を通学しやすい場所に設置するよう山形県に対して要望しています。

まずは中高一貫教育校を！

入間田医師 東京の小児科医として、中学受験する子どもたちをたくさん見てきました。みんな意欲的で、前向きにすごく勉強している。そして、中高一貫の6年間を通して、余裕を持って自分の将来を考えることができていると思うんです。

医学部で言うと、全員地域枠で合格させない限り、今のままでは地方の普通高校には厳しい戦いになる一方だと思います。そこに風穴を開けるために、中高一貫教育校を造ることは1つの大きな選択肢になると思います。

小関医師 県立の中高一貫教育校は意義のある取り組みだと思います。学力だけでなく、スポーツや芸術など、それぞれが自分の才能や目標を見つけ、伸ばしていく環境としても魅力があります。

私自身、志の高い仲間と切磋琢磨しながら医学部に進学しました。中高一貫教育校の成果はこれから少しずつ表れてくるものと思います。人材育成は長期的な視点で取り組むことが何より大切だと考えています。



東京から2時間は、米沢の強み

近藤市長 最後に米沢の「強み」は何か、それを生かすためのアイデアがあれば、提言ください。

渡部医師 郷土愛だと思います。米沢を離れて暮らす人って、どこかで米沢に帰りたいと思っている人が案外多いと思います。関係人口、交流人口といいますが、足元の米沢出身者にさまざまな形でアプローチしたらどうでしょう。

入間田医師 強みは東京に近いこと。現在、東京と米沢を月5、6往復していますが、片道2時間ですから楽なもんです。もっと、この強みをアピールすべきですね。

金子医師 山形市は東京から遠いんです。新幹線で3時間、飛行場は東根市まで行かないといけない。米沢は魅力ある素材がある。伸びしろありますよね。

地域医療の好循環へ

小関医師 鷹山公以来の改革精神が息づく米沢だからこそ、外で学び、経験を積んだ人が再び戻り、地域を支える循環が生まれることを期待しています。「米沢で地域医療に携わりたい」と思ってもらえるようなモデルを示していきたいと考えています。



●米沢市診療所開設支援補助金

市内に診療所を新たに開設、既存の診療所を承継する医師に対し、必要な経費の一部を助成する制度です。開業医不足を解消し、市民が安心して暮らせるまちづくりを目的としています。

●この補助金を活用したその他診療所

- ・ほさか窪田クリニック（穂坂雅之医師／内科・整形外科・リハビリテーション科）R7.10月
- ・よねざわ耳鼻咽喉科クリニック（和氣貴祥医師／耳鼻咽喉科）R8.11月予定

金子 優 医師

- 医療機関名／よねざわ眼科
- 診療科（専門分野）／眼科（白内障・硝子体・緑内障手術）
- 開業・承継年月／令和8年1月承継
- 略歴／西部小～米沢三中～興譲館高校～山形大学医学部卒。山形大学医学部附属病院、南カリフォルニア大学などを経て承継
- 医療機関情報／中央 3-3-2 ☎ 24-2500



ホームページ

渡部 昌久 医師

- 医療機関名／渡部眼科クリニック
- 診療科（専門分野）／眼科（白内障・硝子体手術）
- 開業・承継年月／令和8年3月開業
- 略歴／興譲小～米沢四中～興譲館高校～岩手医科大学～日本大学医学部（板橋）大学院卒。大学関連病院などを経て新規開業
- 医療機関情報／成島町 3-3331-1 ☎ 27-7307



ホームページ

入間田 健 医師

- 医療機関名／小児科 入間田医院
- 診療科（専門分野）／小児科（一般、アレルギー、感染症）
- 開業・承継年月／令和8年11月承継予定
- 略歴／北部小～米沢四中～興譲館高校～東京慈恵会医科大学卒。東京都立大塚病院などを経て承継予定
- 医療機関情報／中央 6-1-25 ☎ 23-1629



ホームページ

小関 啓太 医師

- 医療機関名／こせき腎・泌尿器科 こせき小児科
- 診療科（専門分野）／内科（総合内科、循環器内科）
- 開業・承継年月／令和9年1月承継予定
- 略歴／興譲小～米沢一中～興譲館高校～群馬大学医学部～東京大学大学院卒。三井記念病院などを経て承継予定
- 医療機関情報／大町 4-4-14 ☎ 21-8787



ホームページ

県教育長に要望『中高一貫教育校を米沢の市街地に』 1万6千超の署名集まる

米沢市は「県立中高一貫教育校の米沢への設置」を重要事業に掲げ、米沢興譲館高校および米沢東高校の同窓会、米沢商工会議所などで構成する「米沢新高校の早期整備を実現する会」（吉野徹会長）とともに要望活動に取り組んでいます。

今年7月21日には県庁の須貝教育長を訪問。実現する会の吉野会長らは、興譲館高校を移転し中高一貫教育校を通いやすい場所へ設置することを求めた1万6千筆を超える署名簿を提出しました。

R7.7.25 県教育長要望



中高一貫教育校って、どんな学校？

高校入試の影響を受けることなく、中高の6年間で子どもの可能性を伸ばす教育を行う学校です。幅広い年齢集団の中で、豊かな人間性を育成できることも特徴です。

中高一貫教育校は、生徒の個性に合わせ、

- ①将来の進路と結びついた学習ができる
- ②早い段階で高校の範囲を学ぶ「先取り学習」ができる
- ③英語や探究学習に優れている

などメリットがあると言われています。

山形県教育委員会では、中学校進学時の入学者選抜に加えて、高校進学時からでも入学できる「併設型」中高一貫教育校の設置を基本としており、県内では平成28年に東根市に県立東桜学館中学校・高等学校、令和4年に鶴岡市に県立致道館中学校・高等学校が開校しました。

なぜ、米沢に必要なの？

実現する会では、新たな中高一貫教育校は、米沢興譲館高校と米沢東高校の統合を想定しています。上杉・米沢藩の歴史を受け継ぐ国内屈指の伝統校を中高一貫教育校とし、置賜3市5町から生徒が集まり、切磋琢磨する環境のもとで「置賜の人材を育てる学び舎」となることが期待されます。置賜の中核である米沢に拠点校を置くことで、村山地区との教育格差の解消にも寄与します。

現在の米沢興譲館高校は通学に非常に不便というご意見が市内外から数多く寄せられています。「まちづくり」の観点からも、山形県教育委員会に対して中高一貫教育校に合わせて移転を要望しています。

なぜ、今なの？

県外の企業が地域への進出を判断するポイントの1つがその地域の教育水準です。医師や薬剤師も同じです。人口減少が進む中、教育力が地域の経済力・暮らしの豊かさに直結します。中高一貫教育校は米沢・置賜の人材を育て、人を呼び込む「人材の好循環」の起点となります。

県外では茨城県立水戸第一高校や福島県立安積高校など県立の伝統校が相次いで中高一貫教育校化しています。

米沢にとって、ここ数年がラストチャンスです。

令和7年度 大学現役合格者数の実績

	医学部医学科	東北大学
米沢興譲館高校	1	0
東桜学館高校	4	7

出典：各校ホームページ